

II 研究活動報告

高根町内に分布する石造物について ——特に板碑を中心として——

高根町教育委員会 雨宮 正樹

1. はじめに

町内に指定文化財を含めて大小32基の板碑が、路傍・墓地・道祖神場・屋敷内に点在する。板碑はその形態から武蔵系以下常陸・東北・畿内・阿波・九州の諸系列に分類することができるが、町内に見られるものは郡内地方に見られる武蔵系とは異なり板碑としての形態のなかで若干の省略等が見られるものの、国中地方独自の板碑を構成している。現在報告されている板碑は、一部を除けばすべて中世の所産と思われ、中世の一地方史をうかがう上で貴重な遺構である。

2. 板碑の研究史

県内において板碑の研究は、植松又次氏・持田友宏氏・坂本美夫氏・佐藤勝広氏らにより積極的に集成、研究されている。特に持田友宏氏により県内全体のほぼ全貌が把握され、体系が区分された功績は大きいものがある。坂本美夫・佐藤勝広氏は県内各地に散らばる未発表の研究を行い発表されている。このことにより、県内においてはほぼそろった感もあるが、すべてを掌握しているわけではなく、その性格上今後増加する傾向も見られなくもない。拙稿は、町内に対象をしづらり紹介し、若干の考察を行いたい。

3. 板碑について

①寺院に伴うもの

・箕輪新町大蔵廃寺の名号板碑（1）

本板碑は、箕輪新町の集落北詰めの旧国道141号の西に位置する少林山大蔵廃寺境内に所在する。法量は高さ90cm、幅32cm、奥行18cmを測り、台座上に建立されている。銘文は、山形頂上部に円形が陰刻されその中に阿弥陀如来をさす梵字（キリーク）、胴部には三行にわたって刻字されている。中央部には「南無阿弥陀佛」、右側には年号である「長禄二年」（1458）、左側には月日である「十月七日」と読むことができる。この板碑は、これらの要素から町の文化財に指定されている。

・箕輪養福寺の日月・六地蔵板碑（2・3）

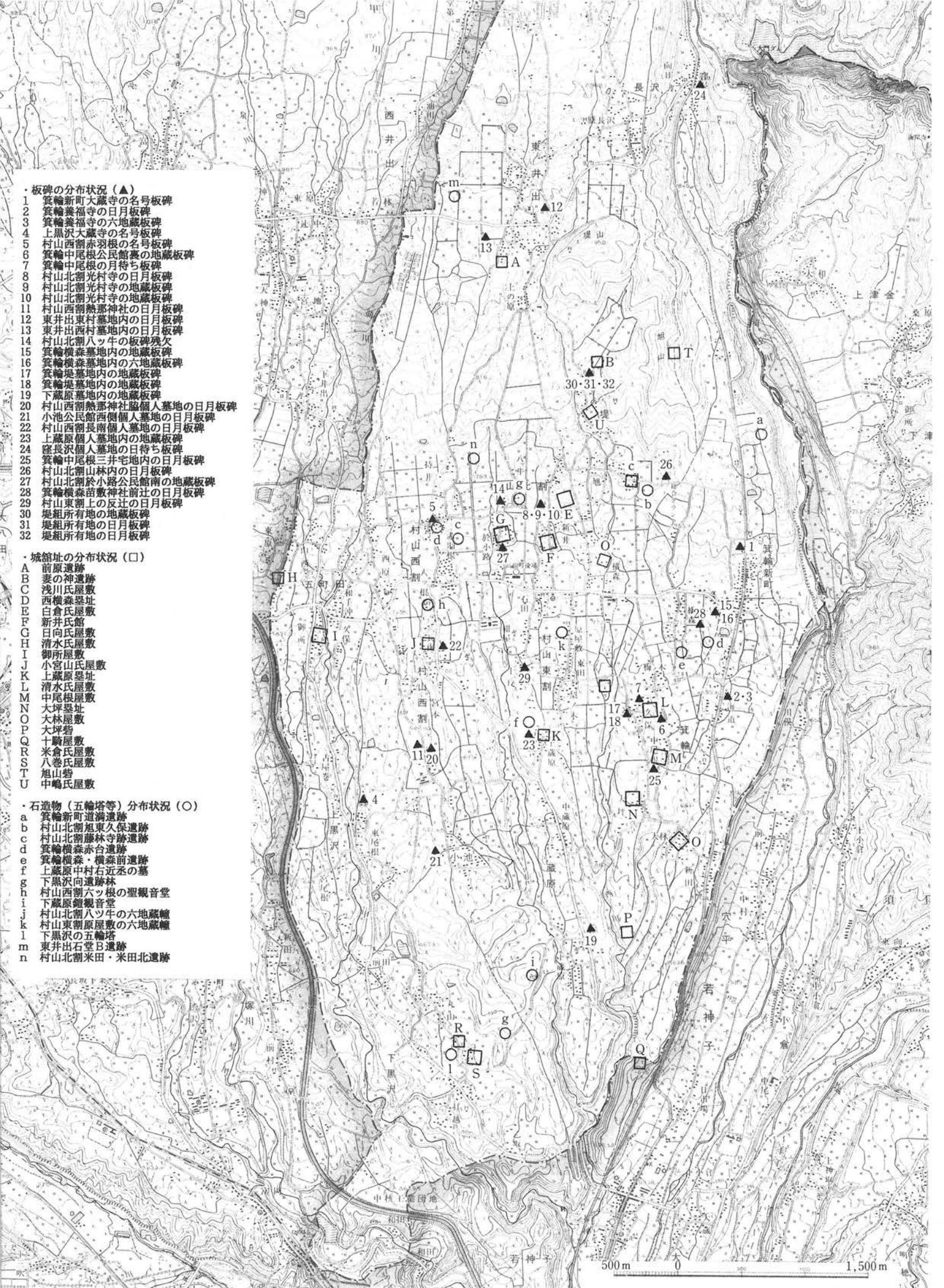
両板碑は、箕輪海道の集落内の旧国道141号沿に位置する箕輪山養福寺の山道脇に所在する。

日月板碑の法量は、山形は欠損するものの高さ43cm、幅22cm、奥行11cmを測り、台座上に建立されている。条線直下に直径9cmの日月が刻まれている。

六地蔵を陽刻した板碑と思われるものがある。板碑の特徴である山形や二条線を含む上部半分は消失しており、現存部分の法量は高さ42cm、幅30cm、奥行12cmを測り、地蔵6体を2段に3体づつ半肉彫りし、台座上に建立されている。地蔵一体ごとの大きさは高さ15cm、幅6cmを測る。全体の造作から板碑と判断したが、今後の集成を待ちたい。

・上黒沢大蔵寺の名号板碑（4）

本板碑は、国道141号沿いの須玉町若神子新町交差点から西に向かう県道須玉八ヶ岳公園線を4kmほど進ん



第1図 板碑・中世城館址・五輪塔出土遺跡分布図

だ、道路右側の一段高い丘陵上に位置する黒沢山大藏寺庫裏の歴代住職の墓地内に所在する。法量は高さ66cm、幅28cm、奥行17cmを測り、台座上に建立されている。銘文は、山形頂上部に円形が陰刻されその中に阿弥陀如来をさす梵字(キリーク)、胴部には三行にわたって刻字されている。中央部には「南無阿弥陀佛」、右側には「日光勢至」、左側には年号である「文明十三年」(1481)と読むことができる。

・村山西割赤羽根の名号板碑 (5)

本板碑は、高根町役場より西に約2kmほど離れた、道路左側の公民館敷地内に所在する。この一角は現在公民館として利用されているが、周囲にある石造物等から寺院があったことが予想される。法量は高さ98cm、幅35cm、奥行20cmを測り、台座上に建立されている。銘文は、山形頂上部に円形が陰刻されその中に阿弥陀如来をさす梵字(キリーク)、その下には二条線と額部を設け、碑面中央部の上部に阿弥陀三尊を表す種子(キリーク・サ・サク)が陰刻され、その下に「南無阿弥陀佛」が、下方台座に接した根部には蓮座が彫り込まれている。

・箕輪中尾根の地蔵陽刻板碑 (6)

本板碑は今回初めて報告するものであり、高根町立東小学校より南に約1.5km程離れた、道路右側の公民館裏に所在する。この一角は現在公民館として利用されているが、周囲にある石造物等から寺院があったことが予想される。法量は高さ54cm、幅は上部で30cm、真中で33cm、下部で31.5cm、奥行14cmを測り、船形をし、地中に下半身が埋没した状況で発見された。山形頂上部は乳頭状にわずかではあるが飛び出しており、二条線は山なりに線刻されている。碑面真中には山形になるように龕を彫り込み、地蔵尊を半肉彫りしている。

・箕輪中尾根所在の月待ち板碑 (7)

本板碑は、高根町立東小学校より南に約1.5kmほど離れた、道路右側のゲートボール場の西側に東面して所在する。上記の板碑との距離は、直線距離で200mほど離れている。

法量は高さ70cm、幅は35cm、奥行24cmを測り、台座上にコンクリートにより固定されている。山形は内側に若干内湾し、下部に幅10cmの額を設け、二条線を上方に線刻している。額直下に直径10cmの月輪を線刻し、中に梵字を、下方に銘文を刻んでいるが、最初の1文字がわかるのみである。刻まれている文字は、その画数などから「月」、その続きには3ないし4文字があると思われる。このことから、月輪の中に刻まれている梵字は「サク」と思われる。

・光村寺日月・地蔵板碑 (8・9・10)

三板碑は、高根町役場より北に約1kmほど離れた、道路北側の尾根上に所在する日向山光村寺裏の参道脇及び北側の個人墓地内に所在する。

墓地内に所在するものは、山形部がごくわずかに見え、二条線も下の線は明確にわかるものの上の線は不明瞭である。現状の法量は高さ34.5cm、幅は上部で18cm、下部で21cm、奥行7cmを測る小型のものである。二条線下部に直径5cmの日月を線刻している。

北の参道脇にある灯籠の笠の上に所在し、上部半分は消滅している。現状の法量は高さ21cm、幅は上部で21cm、下部で18cm、奥行5cmを測る。碑面には高さ20cm、幅8cmの地蔵立像を陽刻している。

上記の道を挟んだところに非常に小型の板碑が所在する。山形部は磨滅等により確認できないが、現状の

法量は高さ23cm、幅は16cm、奥行は上部で6.5cm、下部で10.5cmを測る。碑面全体に地蔵尊が半肉彫りされているようであるが判明できない。

②神社に伴うもの

・村山西割熱那神社の日月板碑（11）

本板碑は、高根町役場より南西に約1.5kmほど離れた、道路右側の熱那神社本殿脇に所在し、現存する法量は高さ48cm、幅28cm、奥行12cmを測る。上部に直径5cmの日輪と直径8cmの月輪を線刻している。下部には6cm程度の柄が付き、全体の造作から板碑と判断した。

③墓地に伴うもの

・東井出東村の個人墓地内日月板碑（12）

本板碑は、国道141号沿いの長沢交差点から西に向かう県道長沢小淵沢線を2kmほど進んだ、道路右側尾根上に造られている東井出東村の墓地に所在し、法量は高さ30cm、幅22cm、奥行7.5cmを測り、直径5cmの日月を刻んだものである。

・東井出西村の個人墓地内日月板碑（13）

本板碑は、国道141号沿いの長沢交差点から西に向かう県道長沢小淵沢線を2.5kmほど進んだ、尾根上に造られている東井出西村の墓地に所在し、法量は高さ45cm、幅22cm、奥行13cmを測り、条線直下に直径8cm日月を刻んでいる。本体中央部に三行にわたって、文字が刻まれている。右より判読できる文字は一字であるが「墓」？、中央には「由井半之丞」、左には「大永甲申二月」（大永四年＝1524）と判読できる。

・村山北割八ツ牛の個人墓地（14）

本板碑は、高根町役場より北に約1kmほど離れた、道路左側の尾根上に造られた個人墓地の石組中より発見された。板碑の断片と思われ、柄を伴う基部部分にあたり、現存する法量は高さ21cm、幅23cm、奥行12cmを測る。当初ここに安置されていたものではなく、すでに破壊され、墓域を構成する石材の一部として使用されたものと思われる。残欠の下部には2.5cm程度の柄が付き、全体の造作から板碑と判断した。

・横森前墓地所在の地蔵陽刻・六地蔵板碑（15・16）

本板碑は、旧国道141号と箕輪バイパスとの間にはさまれた、箕輪新町交差点から西へ約0.5kmほど進んだ、道路左側尾根上に造られている横森の共同墓地内の石造物が集められた中に所在する。

地蔵陽刻板碑の法量は高さ46cm、幅25cm、奥行13cmを測り、二条線直下に直径6cmから10cmの日月を線刻している。碑面に蓮の花弁状の龕を設け、地蔵尊を半肉彫りしている。

六地蔵板碑の法量は高さ64cm、幅は上部で36cm、下部で42cm、奥行は上部で11.5cm、真中で13cm、下部で16cmを測り、上部1/3のところで逆くの字状に屈曲している。碑面にやや背が高いかまぼこ状の龕部を設け、地蔵6体を2段に3体づつ半肉彫りしている。地蔵1体の大きさは、高さ16cm、幅5cmを測る。全体の造作から板碑と判断したが、今後の集成を待ちたい。

・箕輪堤の個人墓地内の地蔵陽刻板碑 2面 (17・18)

本板碑は、高根町立東小学校より南へ約1.5kmほど離れた、久保公会堂前の共同墓地内の個人墓地参道の両脇に近世の石碑と混ざって2面あり、いずれも東面し台座上に建てられている。

参道南側に所在する板碑の法量は、高さ54cm、幅は25cm、奥行は上部で10cm、下部で13cmを測り、碑面上部二条線直下に直径9cmの日月を線刻している。下部に蓮の葉状の龕部を設け、その内側に高さ21.5cm、幅9cmの地蔵を半肉彫りしているが、その他の銘文は見られない。

参道北側に所在する板碑の法量は、高さ52cm、幅は26cm、奥行は上部で9cm、下部で13cmを測り、碑面上部二条線直下に直径9cmの日月を線刻している。下部に蓮の葉状の龕部を設け、その内側に高さ21.5cm、幅9cmの地蔵を半肉彫りしているが、その他の銘文は見られない。

2基とも同じような状態で、碑面ほぼ中央部から上下に割れており、著しく破損している。これは石材によるものかと思われるが、比熱を受けたようにも思われる。このことから、元来2基一対で所在したと思われ、墓所の改装に伴い石碑を移動したことにより別々になったものと思われる。

・下蔵原の集団墓地内地蔵陽刻板碑 (19)

本板碑は、国道141号沿いの須玉町若神子新町交差点から西に向かう町道西割小池蔵原線を1.5kmほど進んだ、道路右側の一段高い丘陵上に位置する蔵原の集団墓地内に東面して所在する。法量は高さ54cm、幅は上部で20cm、下部で23.5cm、奥行は上部で10cm、下部で14cmを測り、側面はやや内側に湾曲するような状況で、碑面上部中央に直径8cmの日輪、下部に地蔵を陽刻しているが、その他の銘文は見られない。

・村山西割熱那神社脇個人墓地内日月板碑 (20)

本板碑は、高根町役場より南西に約1.5kmほど離れた、道路右側の熱那神社境内を挟んだ東側の個人墓地に西面して所在する。法量は高さ49cm、幅は上部で22.5cm、真中で26.5cm、下部で27cm、奥行は上部で10cm、下部で13cmを測り、二条線は両側面まで回り込み、条線直下に日月を刻んでおり、日輪は直径5cmの陰刻、月輪は直径5cmの線刻となっており、その他の銘文は見られない。

・小池の墓地内日月板碑 (21)

本板碑は今回初めて報告するものであり、高根町立高根西小学校より南へ約1kmほど離れた小池公民館西の、道路右側に東面して所在する。法量は高さ49cm、幅は上部で25cm、下部で27cm、奥行は上部で15cm、下部で8cmを測り、条線下部より方形に掘りくぼめ、碑面上部左に直径8cmの月輪、右に直径6cmの日輪を線刻し、条線1本が両側面まで刻まれている。その他の銘文は見られない。

・村山西割長南個人墓地内日月板碑 (22)

本板碑は今回初めて報告するものであり、高根町立中学校より西に約1kmほど離れた、道路左側の個人墓地内に東面して所在する。法量は高さ50cm、幅は上部で27cm、下部で25.5cm、奥行は10cmを測り、直径5cmの日月を刻んでおり、その他の銘文は見られない。

・上蔵原個人墓地内地蔵板碑 (23)

本板碑は今回初めて報告するものであり、高根町立中学校より南に約1kmほど離れた、上蔵原墓址の個人

墓地内に東面して所在する。法量は高さ23.5cm、幅は上部で11.5cm、中央部で12.5cm、下部で13cm、奥行は上部で4.5cm、中央部で7cm、下部で7.5cmを測り、下部全体を使って地蔵を陽刻している。その他の銘文は見られない。

④屋敷内に所在するもの

・長沢輿水氏宅地内日待ち板碑 (24)

本板碑は、現国道141号と旧佐久往還が交差、県道長沢小淵沢線の交差点ともなっている、東に所在する輿水氏宅地内の山の斜面にある屋敷墓地に安置されている。法量は高さ41cm、幅22cm、奥行10cmを測り、側面は緩やかに弓に張り出している。碑面上部には直径約8cmの日輪を線刻しているが、その他の銘文は見られない。

・箕輪中尾根三井氏宅地内日月板碑 (25)

本板碑は、国道141号沿いの建部神社より西に約0.8kmほど離れた中尾根地区の三井氏の畠中に南面して所在する。法量は高さ46cm、幅は二条線部で26cm、下部で22cm、奥行は10cmを測る。二条線の上は表面のみ、下は両側面まで回り込んでいる。二条線直下に日輪は直径5cm、月輪は直径10cmを線刻しているが、その他の銘文は見られない。この板碑と一緒に庚申塔も建立されていることから庚申信仰によるものかもしれない。

⑤城館址等に伴うもの

・村山北割社口旭山山林中所在の日月板碑 (26)

本板碑は今回初めて報告するものであり、高根町総合グラウンド北の山林内に所在する。法量は高さ58cm、幅は上部で24cm、真中で25cm、下部で26cm、奥行は上部で11.5cm、真中で12.5cm、下部で13cmを測り、自然石の上に建立されている。山形は若干変形しており、二条線を線刻している。条線直下に直径7cmの日月を、その間に逆三角形を線刻している。碑は左右対称ではなく、ゆがんだような状態である。

この板碑が所在する所は、朝日山墨址が所在する朝日山の麓である。現存する墨址の構築年代は、天正壬午の乱の頃と推定されているが、具体的な調査が行われていないことから、構築年代は不明である。しかし、昭和59年に圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を旭東久保遺跡として調査を行ったところ、上限を15世紀代に求められる青磁器が掘立柱建物址群柱穴覆土中より出土し、この西に所在する小高い丘陵上から年代は特定できないもののカワラケ4点が埋納されたかのような状況で出土したと伝えられている。現況では土墨等は確認されないものの、中世の館跡が存在したと推定される。

・村山北割於小路地蔵陽刻板碑 (27)

本板碑は、高根町役場より北に0.2kmほど離れた、於小路公民館南のクランクに交差する道路際に南面して所在する。上部は欠損しているが、造作により板碑と判断した。法量は高さ33cm、幅は上部で21cm、下部で20cm、中央で23cm、奥行は上部で8cm、下部で10cmを測り、台座上に建立されている。この状況から中央部が緩やかにふくらんだ船形をしている。碑面全体を堀りくぼめ高さ33cm、幅11.5cmを測る地蔵を陽刻している。

この於小路公民館を含む一帯は、日向大和守の屋敷跡として言い伝えられている。

⑥村の辻等の路傍にあるもの

・横森苗敷神社前辻所在日月板碑 (28)

本板碑は、箕輪バイパスと県道高根長坂線の交差点より南へ約1kmほど離れた農道との交差点の道路際に南面して所在する。山形は独立したような状況で造られており、山形には輪郭線を兼ねて二条線が線刻されている。直径9cmの日月をはさんでその下部にも二条線が線刻されている。法量は高さ64cm、幅は上部で29cm、下部で27cm、奥行は上部で15cm、下部で13cmを測る。

・村山東割上の反の辻所在日月板碑 (29)

本板碑は、高根町立高根中学校より南東に0.5kmほど離れた、紺屋上の反公民館南の交差点西に東面して所在する。上部は欠損しているが、造作により板碑と判断した。法量は高さ63cm、幅は30cm、奥行は16cmを測る。直径9cmの日月を挟んでその下部にも二条線が線刻されている。

・堤組所有地の地蔵・日月板碑 (30・31・32)

本板碑は、高根町役場より北東方向に約2kmほど離れた、堤組所有地の自然石の上に南面して三碑所在する。地蔵板碑の法量は高さ39cm、幅は上部で21cm、下部で24cm、奥行は上部で7cm、下部で12cmを測り、山形ではなく円形に整形されている。碑面上部には直径7cmの日月が連結するように線刻されている。下部には高さ26.5cm、幅18cmの地蔵を陽刻している。

東側に所在する日月板碑は高さ40cm、幅30cm、奥行は上部で4cm下部で17cmを測り、将棋の駒形をしている。二条線直下に直径8cmの日月を線刻しているが、その他の銘文は見られない。

西側に所在する日月板碑は高さ45cm、幅は上部で32cm、下部で24cm、奥行は15cmを測る、野球のベース板のような形をしている。碑面は非常に荒れており、わずかではあるが直径12cmの日月を陰刻しているが、その他の銘文は見られない。

4. 高根町内の様相について

現在町内で確認されている板碑は25ヵ所32基を数え、碑面に刻まれている造塔主旨は、様々なものがうかがえる。これらの中で多く見受けられるものとして日待ち・月待ち信仰がある。これに該当する板碑は月待ち・日待ちの単独板碑を含めると15基を数え、地蔵尊が陽刻されたものは、六地蔵を含めて12基（内六地蔵は2基）確認され、名号にいたっては3基を数えるのみである。一概に基数の多さで信仰の多さを判断するわけにはいかないが、いかに信仰が多様化していたかをうかがい知ることができる。

5. 年代幅

紀年銘が刻まれているものは3基存在し、年号の古い順で並べると箕輪新町の大蔵寺に所在する「長禄二年」(1458)の名号板碑、上黒沢の大蔵寺に所在する「文明十三年」(1481)の名号板碑、東井出西村墓地内に所在する日月板碑の「大永甲申」(1524)となる。その他については、紀年銘がなく推定の範囲を出ないが、村山西割の赤羽根公民館前に所在する名号板碑は、箕輪新町大蔵寺の名号板碑と上黒沢の大蔵寺名号板碑の例などから15世紀後半代に位置するものではないかと思われる。

持田友宏氏によれば県内でみられる地蔵板碑のなかで年代の判定できるものは、永正6年(1509)と永禄2年(1559)の2基があり、16世紀の所産であることから町内にみられる地蔵板碑のほとんどがこのなかに

含まれるものであろう。

町内に比較的多くみられる日月板碑のほとんどが高さ60cm以下の比較的小型化したもので、地元で産出する安山岩製であることなどから民間信仰が盛んに行われる年代が想定されよう。前述した東井出西村墓地内に所在する日月板碑は大永年間に造立されていることから、このあたりを上限として中世末か近世初頭まで造られていたのかもしれない。

6. 考 察

以上確認されている板碑について個々にその特徴等を述べてきたが、これらが建てられている個所及び近隣の状況について若干述べてみたい。

特に東井出のものについては、この近隣に館跡の存在が指摘できる。平成7年に県営圃場整備事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を行ったところ、板碑の所在地より南に0.5kmほど離れた地点において、地下式土壌を5基確認している。このときの調査においては、南北に延びる尾根上のごくわずかな面積ではあったが、調査区内の一角にまとまって地下式土壌が検出され、さらに北に延びるような状況であったことから、主体は現在住宅が建てられている場所であることが推察される。このような館跡の存在を指摘できる板碑としては、堤・村山東割上の反・村山北割於小路・八ッ牛・旭・箕輪堤などが列挙できる。

高根町誌通史編並びに山梨県の城館址等によれば町内に21カ個所の城館址等の分布が見られる。これらはいずれも甲信国境の警備隊として活躍した津金衆・小尾衆・小池衆・武川衆等のように、近世になってその存在が明らかになった地域限定的な土豪層の武士集団の居館と思われる。

藏原地内より天文21年の年号が刻まれた経筒が経塚と思われる塚より1点出土している。この経筒は金銅製であり蓋には葡萄の模様があり、経筒側面に34文字が陰刻されている。文面は上部に梵字（キリーグ）を刻み「十羅刹女 甲州住侶中村 奉納大乘妙典六十六部聖 三十番神 天文二十一年今月」とあり、この塚の近くには中村氏の墓地があり、そのなかの五輪塔には高野山成慶院に所在する武田家過去帳に記載のある「授林道傳禪門 逸見藏原 中村右近丞 榮富妙繁信女 甲州逸見藏原 中村右近丞 内方」と刻まれている。この塔はいずれも逆修で現世利益等を祈願するために建てられたものであり、経筒と五輪塔の人物は同一人物であろう。

この中村右近丞とはいかなる人物であったのか。武田家の過去帳に記載されていることから、武田氏とは因縁浅からぬ人物であり、逸見と記述されていることから、高根町を含むいわゆる逸見一帯を掌握していた人物であろう。

高根町指定文化財として「坂本清三郎宛書簡」がある。この書簡は、差出人 昌光（清水太郎左衛門尉昌光）が、受取人 坂本清三郎に出したものである。

この書簡は（昌光）なる人物が、坂本清三郎宛にこれまでの（坂本清三郎の）（昌光）に対する協力に感謝し、（昌光が）村山の主になったならば、（坂本清三郎）に一騎前の宛行をすることを約束したものである。これについては、『甲斐国志』巻之百十二士庶部第十一に取り上げられており、『甲斐国志』の解釈には2つのミスがあると思われる。その1つは干支を寛永15年（1638）としていること、2つは文書の発信人を「昌元」と読み違え、日向氏縁の人物と見ていることである。

文面から干支（戊寅）は「我ら村山の主に罷成候ハハ」等の文言から寛永年間とは考えられず、武田氏滅亡前後でなければならないし、文書の主は「昌元」ではなく「昌光」であることは原書により明瞭である。

そして「昌光」は津金衆の中の「清水太郎左衛門尉昌光」であろうと考えられる。

信仰の一つの例として、高根町指定文化財のなかに「今川氏朱印過書」がある。これは、天文22年に伊勢神宮参拝の一行に駿河国主今川義元が駿河遠江三河三国の関所渡し船等の通行を保証したものであり、当時より伊勢信仰が盛んに行われていたことを示す資料である。

以上中世の古文書より町内在住の有力な土豪層や一部の信仰をあげたが、この他にも油井氏・植松氏・小宮山氏等が生活の拠点をこの八ヶ岳南麓においていたことは、確証は少ないものの、裏付けを中世に根源を持つ板碑に求めたい。しかしながら、露天にさらされたり、次代の人々により削り取られたり、追刻されたりできる石造物の性格上、鵜呑みにできないところもあるが、中世を考察する上で貴重な資料であることは変わりはない。

今回は、高根町内でもごく小範囲にしぼって小稿をまとめてみたが、資料把握の未熟さは否めない。今後さらに集成・精査を行い、基数の増加を図りより一層精度を高くし、失われた中世史の一端でも垣間見れればと思う。

【引用・参考文献】

- 服部清道 1972 『板碑概説』角川書店
小沢国平 1973 『板碑入門』日本史研究入門叢書 隣人社版
石田茂作監修 1976 『新版仏教考古学講座』第3巻 塔・塔婆 雄山閣
植松又次 1977 『甲斐の石造美術』山梨郷土研究会
佐藤勝廣 1978 「甲斐の板碑（その2）国中地方の地蔵陽刻板碑」『丘陵』第6号
坂詰秀一編 1982 『板碑研究入門』考古学ライブラリー12 ニュー・サイエンス社
坂詰秀一編 1983 『板碑の総合研究』1 総論編 柏書房
坂詰秀一編 1983 『板碑の総合研究』2 地域編 柏書房
高根町 1984 『高根町誌』民間信仰と石造物編
持田友宏 1988 『甲斐国の板碑』1 郡内地方の基礎調査 クリオ
高根町 1989・1990 『高根町誌』通史編 上・下巻
佐藤勝廣 1991 「峡北地域に分布する日月を刻む板碑について—特に小淵沢町・長坂町・須玉町・明野村・武川村を中心にして—」『山梨県考古学協会誌』第4号
持田友宏 1992 『甲斐国の板碑』2 国中地方の基礎調査 クリオ
坂本美夫 1993 「山梨県における月待信仰について—特に石造物の展開を中心として—」『研究紀要』9 山梨県立考古博物館 山梨県埋蔵文化財センター
磯貝正義監修 1995 『山梨県の地名』日本歴史地名体系19 平凡社
雨宮正樹 1998 『八ヶ岳考古』 平成9年度年報 北巨摩市町村文化財担当者会
坂本美夫 1999 「山梨県における月待信仰について」『研究紀要』15 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
坂本美夫 1999 「高根町東井出墓地所在の日月板碑と油井氏」『山梨考古学論集』IV 山梨県考古学協会20周年記念論文集
坂本美夫 1999 『横森・横森前遺跡』—国道141号（箕輪バイパス）建設に伴う発掘調査報告書—山梨県教育委員会・山梨県土木部
能代幸和・網倉邦生 1999 『横森赤台（東下）遺跡』—国道141号（箕輪バイパス）建設に伴う発掘調査報告書—山梨県教育委員会・山梨県土木部

脱稿後、極小の板碑については、石廟の中に納める石碑であり、大きい意味でいえば板碑となるものであるとの御教示をいただいた。今後検討を要するものであろう。